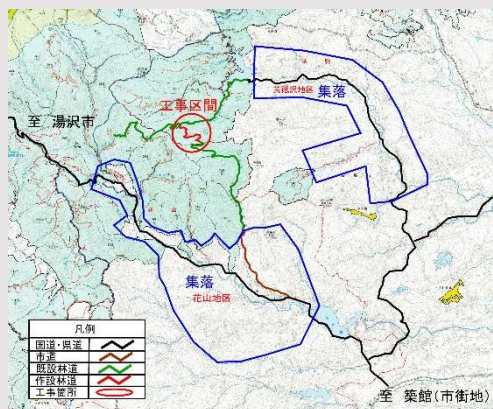


## 事例2 災害に強い林道の整備

(東北森林管理局 宮城北部森林管理署)



- ・宮城県栗原市(くりはらし) 深山岳(ふかやまだけ)国有林
- ・(左) 砥沢(とざわ)林道の図面 (右) 法面保護を行った砥沢林道

森林の健全性を高めるためには適切な森林整備が必要であり、その実施に当たっては林道等の路網整備が必要です。また、林道は、災害により一般道が通行できなくなった際に代替路としても活用され、近年、豪雨災害等が頻発する中で、地域住民の交通確保に重要な役割を果たしています。

宮城北部森林管理署では、災害時の代替路としての機能も考慮しながら国有林野の森林整備を推進するため、林道の新設・改良を実施しました。

砥沢林道の整備に当たっては、平成20年に発生した岩手・宮城内陸地震により林道が甚大な被害を受けたことを踏まえて、林業用車両の通行とともに、地域防災力の向上のため荒砥沢地区と花山地区を結ぶ代替路として一般車両が通行することも想定しています。このため、林道法面を保護するための落石防止ネットと路体の改良工事を行うこととしました。令和元年度から着手した新設・改良工事により、2年間かけて総延長2,147mの林道が令和2年度に完成しました。

近年は、集中豪雨等により路体の崩落、流出、沢沿いの構造物の基礎洗掘、法面の崩落等の災害が多くなっていることから、今後も災害に強い林道の整備を推進します。